

宿屋の亭主 いいよ、いいよ。——そんなことがあったら北風のところへ行ってまた文句をつけてやる。——そうすればまたなにかよこす。——あの北風のやつはこっちからどなって行くにかぎる。おとなしくしていたらキリがない。——さア、ひとつ、植えてくるかな。(立ちあがる)——いやいや、そのまえに腹をこしらえよう。——なにをするにも腹がすいてちやアだめだ。(魔法の棒をおいてかけ時計のそばへ行く。——そのなかにかくしてあるブウツのテーブルかけを出して、もとのところへかえる) だいじょうぶか? だれも来ないか?

宿屋のかみさん (戸口のところへ行って外を見る。——戸を閉めて) だれもきません。

宿屋の亭主 よし…… (テーブルかけをテーブルの上にひろげる。——いばつていすにかけて) ビールとチイズ。……

(テーブルの上にビールとチイズ出る)

(いまさらのように感心して) ふしぎだよ。——そういつてもふしぎだよ。——(宿屋のかみさんに) そう思わないか、おまえ……?

宿屋のかみさん 思いますわ。

宿屋の亭主、食事をはじめ。——とたんに入口の戸がたたかれる。——宿屋の亭主、びっくりしていすからとびあがる。——いそいでテーブルかけをとってどこかへかくそうとする。い

い智慧^{ちえ}が出ないで、結局、自分のかくしのなかへおしこむ。(もとのように時計のなかへかくそうとすると、ちょうどそのとき時計が時をうち出したのであわてるなどのおかしみあり)——そのまに宿屋のかみさん、ビールのびんとチイズの皿を両手にもってまごまごする。

問。

戸、あく。——ブウツ、はいつて来る。

ブウツ ごめんなさい。

宿屋の亭主 だ、だまって人のうちへはいつてくるといふ法がありませんか?

ブウツ だまってじゃアありません。いくらよんでも、あなたの方で返事をしないでだけです。——(宿屋のかみさんのかっこうをみて) ああ、御飯をたべていたんですか。

宿屋のかみさん (あわてて) いいえ、いいえ。——もうすんだんです。……(手にもったびんと皿のやり場にこまる)

ブウツ (宿屋の亭主に) ぼくです。——このあいだの晩とまった。ぼく……(そういいかけて) おぼえているでしょう、おじさん?

宿屋の亭主 いいや。(いそいで横をむく)

ブウツ おぼえていませんか?